

東奥日報

2019年(令和元年)10月25日(金曜日) (20)

隊員が見た南極

市ゆかりの3人は、うちで写真展

八戸

八戸市は、南極地域観測隊に参加した同市ゆかりの人による写真展「南極展」を、八戸ポータルミュージアムはうちで開催している。26日まで。

出展したのは、八戸工業大学工学部生命環境科学科

准教授の鮎川恵理さん(第42次南極地域観測隊)、同大同科教授の星野保さん(第48次同)、同市出身で伊藤ハム商品開発部勤務の渡貫淳子さん(第57次同)の3人。

掲載の許諾がとれないため
写真は削除しております。

八戸市ゆかりの南極観測隊員が撮影した写真が並ぶ南極展

海上自衛隊の砕氷艦「しらせ」が昭和基地に接岸する様子や、気温氷点下20度の氷上でヨガをしている場面、地平線まで人工物がなく雪に覆われた風景など大自然をとらえた。また、昭和基地で八戸せんべい汁の旗を掲げている八戸市ゆかりの隊員らの楽しい表情が印象的な作品も。

会場では国立極地研究所が撮影したオーロラ映像の投影も行っており、南極一色の空間となっている。はっちの寺地菜摘さんは「南極観測隊で活躍している八戸市ゆかりの人がたくさんいることを知ってほしい」と話している。

開催時間は午前9時～午後9時。最終日は午後6時まで。(月館慎司)